

Beamer で発表資料づくり

玄人っぽい発表への道

苗字名前

○○大学○○学部●○学科

January 24, 2015

数式の表示

ポータフォリオ最適化
Fermat の小定理

スライド作成上の常套手段

箇条書き
囲み

分散最小化モデル

- ▶ $x \in \mathbb{R}^n$: 投資配分 (ポートフォリオ) ベクトル

分散最小化モデル

- ▶ $x \in \mathbb{R}^n$: 投資配分 (ポートフォリオ) ベクトル
- ▶ $\Pi \subset \mathbb{R}^n$: ポートフォリオ・ベクトル x に対する制約条件

分散最小化モデル

- ▶ $x \in \mathbb{R}^n$: 投資配分 (ポートフォリオ) ベクトル
- ▶ $\Pi \subset \mathbb{R}^n$: ポートフォリオ・ベクトル x に対する制約条件
- ▶ $\Sigma \in \mathbb{R}^{n \times n}$: 分散共分散行列

分散最小化モデル

- ▶ $x \in \mathbb{R}^n$: 投資配分 (ポートフォリオ) ベクトル
- ▶ $\Pi \subset \mathbb{R}^n$: ポートフォリオ・ベクトル x に対する制約条件
- ▶ $\Sigma \in \mathbb{R}^{n \times n}$: 分散共分散行列

分散最小化モデル

- ▶ $x \in \mathbb{R}^n$: 投資配分 (ポートフォリオ) ベクトル
- ▶ $\Pi \subset \mathbb{R}^n$: ポートフォリオ・ベクトル x に対する制約条件
- ▶ $\Sigma \in \mathbb{R}^{n \times n}$: 分散共分散行列

分散最小化モデル

$$\left| \begin{array}{ll} \min_x & x^\top \Sigma x \\ \text{s.t.} & x \in \Pi. \end{array} \right.$$

Theorem (フェルマーの小定理)

p を素数とする. このとき, 任意の自然数 n に対して,

$$n^p \equiv n \pmod{p}$$

Theorem (フェルマーの小定理)

p を素数とする. このとき, 任意の自然数 n に対して,

$$n^p \equiv n \pmod{p}$$

この定理は数論と暗号理論の基礎になる偉大な定理である.

Theorem (フェルマーの小定理)

p を素数とする. このとき, 任意の自然数 n に対して,

$$n^p \equiv n \pmod{p}$$

この定理は数論と暗号理論の基礎になる偉大な定理である.

Lemma

素数 p に対し, $\binom{p}{k}$ は $1 \leq k \leq p - 1$ のとき, p で割り切れる.

箇条書き（上から順番に小出しに）

発表資料作成の手順

1. まず、発表の目的、意図を考える。

箇条書き（上から順番に小出しに）

発表資料作成の手順

1. まず、発表の目的、意図を考える。
2. 発表の構成を考える。コマ割を紙の上で練る。

箇条書き（上から順番に小出しに）

発表資料作成の手順

1. まず、発表の目的、意図を考える。
2. 発表の構成を考える。コマ割を紙の上で練る。
3. 論文からコピーしながら **beamer** でファイルを作る。

箇条書き（より複雑な制御）

順番を制御することもできる:

- ▶ 常に表示
- ▶ はじめと 3 番目に表示
- ▶ 2 番目までと 4 番目に表示

箇条書き（より複雑な制御）

順番を制御することもできる:

- ▶ 常に表示
- ▶ 2 番目までと 4 番目に表示

箇条書き（より複雑な制御）

順番を制御することもできる:

- ▶ 常に表示
- ▶ はじめと 3 番目に表示

- ▶ 3 番目から表示

箇条書き（より複雑な制御）

順番を制御することもできる:

- ▶ 常に表示
- ▶ 2 番目までと 4 番目に表示
- ▶ 3 番目から表示

囲み

くわしいことは

マニュアルを読むべし！

囲み

くわしいことは

マニュアルを読むべし！

各種ダウンロードは <http://latex-beamer.sourceforge.net/>
などから.

囲み

くわしいことは

マニュアルを読むべし！

各種ダウンロードは <http://latex-beamer.sourceforge.net/>
などから.

誰の言葉でしょう？

来た！見た！勝った！